

低コスト・短工期工法で成長

住金システム建築 10周年

住金システム建築は、住友金属工業現新日鉄住金から2007年10月に分離独立して発足した。設立当初はシステム建築の認知度も低く苦戦したが、建設業の省力化ニーズを背景に着実に業績を伸ばしている。10周年を機にこれまでの歩みと、今後の展望について生井敏夫社長に聞いた。



生井 敏夫社長
インタビュー

後の取り組みについて。強固にする必要があると。

「成長の源泉となる受注対応力は、商社と社員との協力を、協力の3つの要素の掛け算。それぞれのバランスをとりながら、受注

建築主の認知高まる

商品力磨き、対応力強固に

「人材の確保、育成も大きな課題になってく

「社員は160人住居8割が技術系の人材で、建築士、施工管理士などの資格を持っている。営業するにしろ、在来工法との比較を説明する必要がある。さら

「10月21・22日に全国の現場を休みにして、日光・鬼怒川温泉での社員旅行を予定している。全国に拠点があり現場も抱えているので、互いに知らない社員も多く、一堂に会して語り合うための貴重な機会となる。また、新たなロゴマークを設定する予定。住金システム建築の思いが伝わり、親しみを持って存在として感じてもらおうとロゴマークにしたい」

(山本 章夫)